

## だいこん

農薬取締法上「だいこん」と「はつかだいこん(ラディッシュなど含む)」は別作物である。また、「だいこん」は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれないので、葉を食用にする場合でも「だいこん」か「根菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。なお、「間引き菜、つまみ菜」への農薬使用については、後述のコラムを参照すること。

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	ま			トンネル被覆									
初	秋	ま		は種			収穫						
軟萎	腐病												
ア	ブ	ラ	ム	シ									
コ	ナ	ガ	・	ア	オ	ム	シ						
ハ	イ	マ	ダ	ラ	ノ	メ	イ	ガ					
ネ	キ	リ	ム	シ									
ヨ	ト	ウ	ム	シ									
キ	ス	ジ	ノ	ミ	ハ	ム	シ						
カ	ブ	ラ	ハ	バ	チ								

## 軟腐病

### 留意事項

- 1 高温多雨の年に発生が多い。
- 2 キスジノミハムシやヨトウムシの食害痕からも発生しやすい。

### 防除方法

- 1 イネ科、まめ科作物との輪作を行う。
- 2 高うねにして、排水を良くする。
- 3 初秋まきでは、過度の早まきは避ける。
- 4 発病株は、直ちに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 チッソ過多にならないよう、適正施肥に努める。
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [カスミンボルドー](#)、[銅シン水](#)和剤 <M 1> <2 4> 【1000倍 14日/3回】
  - ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【500倍 7日/4回】
  - ・ [スターナ水](#)和剤 <3 1> 【1000倍 14日/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 萎黄病

### 留意事項

- 1 土壌温度26～29℃の時に発生が多い。

### 防除方法

- 1 初秋まきでは、早まきを避ける。
- 2 耐病性品種（YR）を用いる。
- 3 発病株を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 土壌消毒を行う。（**XⅢ**土壌消毒 参照）

## モザイク病

### 防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 耐病性品種を用いる。
- 3 シルバーポリフィルムで、マルチングを行う。
- 4 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシなどが発生する。

### 防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダントツ粒剤](#) < 4 A > 【3～6kg/10a まき溝処理土壌混和 は種時/1回】
  - ・ [プリロッソ粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A > 【2000～3000倍 7日/2回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [ベネビアOD](#) < 2 8 > 【2000倍 前日/3回】

## コナガ・アオムシ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほか、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどの雑草

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

にも寄生する。

- 4 コテツフロアブルは、幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。

#### 防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。

- ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [グレースシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000~3000倍 7日/2回】
- ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【1000~2000倍 7日/3回】
- ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500~5000倍 前日/2回】
- ・ [コテツフロアブル 劇](#) < 1 3 > 【2000倍 14日/2回】
- ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (区野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)

#### 留意事項

- 1 5月下旬より発生が始まり、8~10月の高温乾燥時に発生が多い。
- 2 キャベツ、はくさいも加害する。
- 3 食入前の防除に努める。

#### 防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。

- ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [グレースシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000~3000倍 7日/2回】
- ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【2000倍 7日/3回】
- ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500~5000倍 前日/2回】
- ・ [ベネビアOD](#) < 2 8 > 【2000~4000倍 前日/3回】

## ネキリムシ類

#### 防除方法

1 下記の薬剤を施用する。

- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >

【4~6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時/1回】

【6kg/10a 土壌表面散布 生育期(21日)/1回】

- ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】

- ・ [アクセルベイト](#) < 2 2 B > 【3~6kg/10a 株元散布 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ヨトウムシ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 14日／2回】
  - ・ [ベネビアOD](#) <28> 【4000倍 前日／3回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) <22B> 【1000～2000倍 7日／2回】
  - ・ **BT剤** <11A> (区野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## キスジノミハムシ

### 留意事項

- 1 年3～4回発生で成虫越冬する。
- 2 成虫は葉を、幼虫は根を食害する。
- 3 高温乾燥時に多発する。
- 4 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は、5回以内（但し、は種時のまき溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布は合計2回以内）。
- 5 フォース粒剤の成分テフルトリンの総使用回数は、2回以内（但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内）

### 防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 幼虫に対して、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) <4A>
    - 【4～6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
    - 【9～12kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】
    - 【6kg／10a 散布 生育期（30日）／1回】
  - ・ [フォース粒剤](#) 劇 <3A>
    - 【6～9kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】または
    - 【4～9kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
    - 【6kg／10a 株元散布（14日）／1回】
- 3 成虫に対して、下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレーシア乳剤](#) <30> 【2000～3000倍 7日／2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) <22B> 【1000倍 7日／2回】
  - ・ [ヨーバルフロアブル](#) <28> 【2500倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## カブラハバチ

### 防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) <28>  
【カブラハバチ類 6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤 劇](#) <4A> 【2000~4000倍 14日/1回】
  - ・ [グレーシア乳剤](#) <30> 【カブラハバチ類 2000~3000倍 7日/2回】
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500~5000倍 前日/2回】
  - ・ [ベネビアOD](#) <28> 【カブラハバチ類 2000~4000倍 前日/3回】

## だいこんのつまみ菜、間引き菜への農薬使用について

収穫・出荷時の状態	農薬の使用
つまみ菜より若いダイコン	<u>農薬は使用しない。</u> 農薬を使用した場合は収穫・出荷しない。
つまみ菜 ：本葉おおむね2枚以上	ラベルを確認し、注意事項に「間引き菜、つまみ菜には使用しないこと」の旨の記載がある農薬は使用しない。
間引き菜 ：本葉おおむね4枚以上	また、間引き菜、つまみ菜の収穫をする日を「収穫日」として、使用時期を遵守する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。